

2019年度（令和元年度）の 福岡市域の温室効果ガス排出量等について

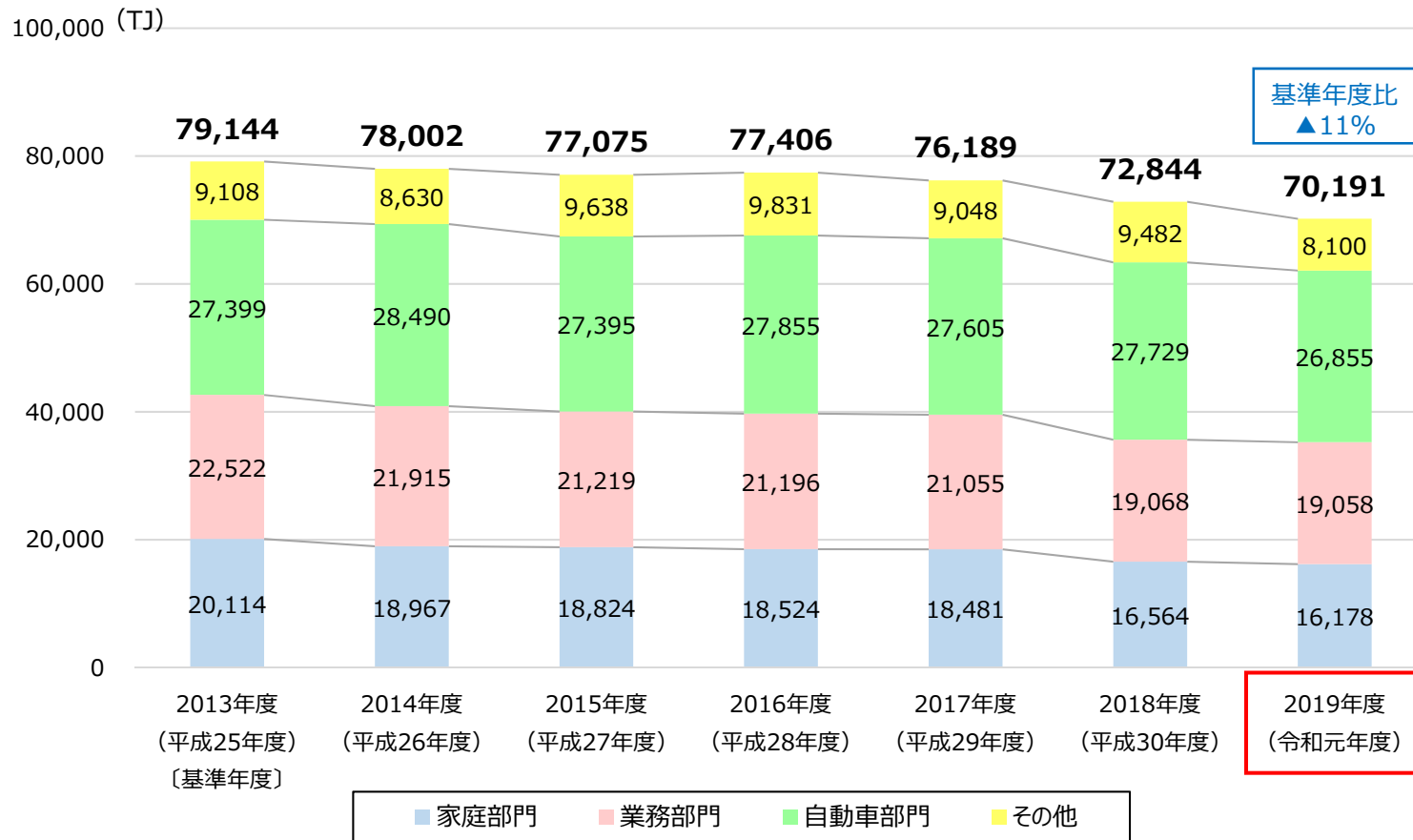
令和 3 年 8 月 10 日

※今後、各種統計データの年報値の修正、算定方法の見直し等により、とりまとめた値が遡及して再計算される場合がある。

1. エネルギー消費量

(1) 市内のエネルギー消費量

- ◆福岡市における2019年度のエネルギー消費量は70,191TJ(テラジュール)であり、3年連続の減少となった。
(前年度比4%減少、基準年度(2013年度)比11%減少)
- ◆部門別では、自動車、業務、家庭部門とも減少傾向が続いている。



※1TJ(テラジュール)=1,000GJ(ギガジュール)=1兆J(ジュール)

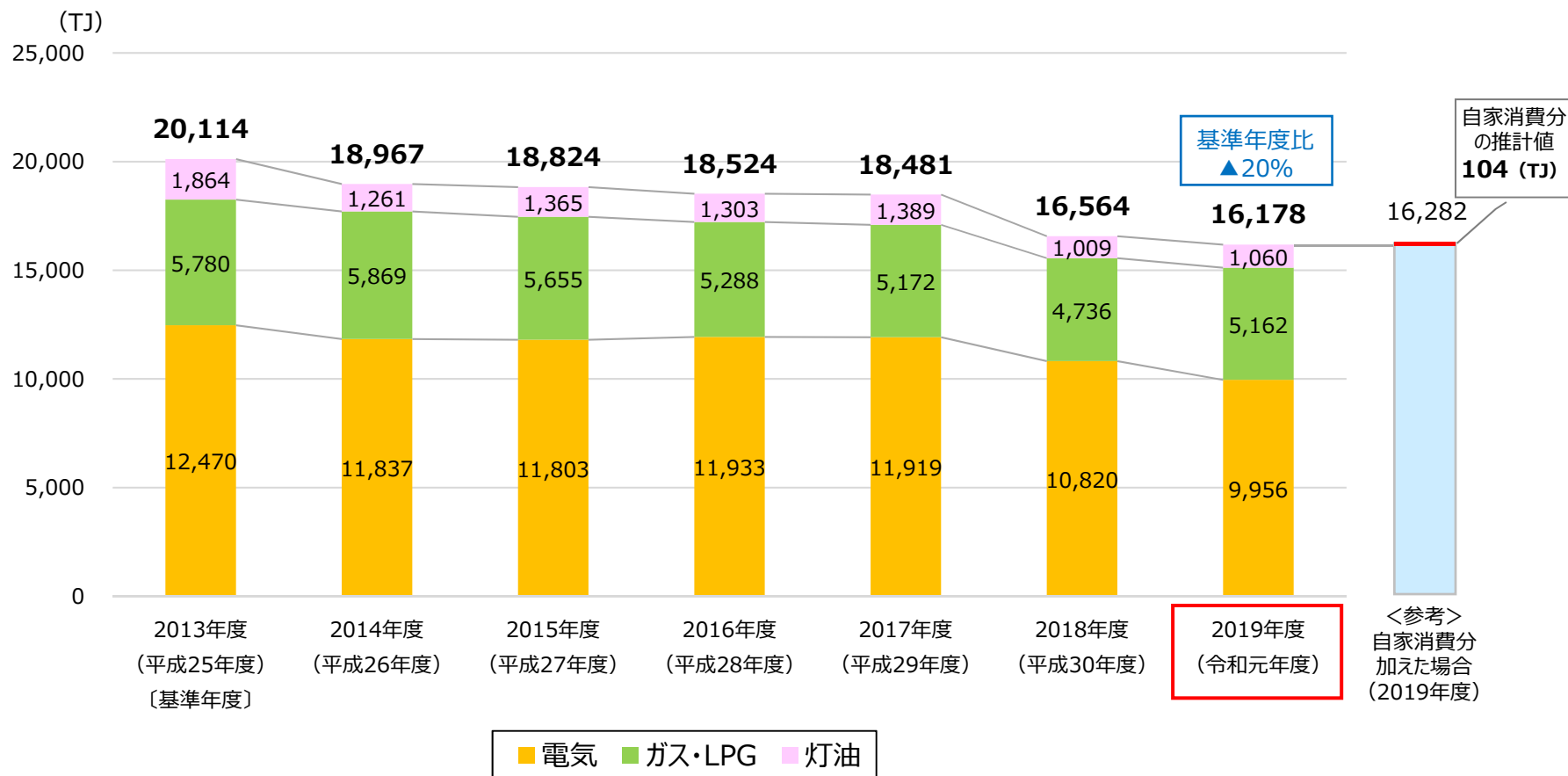
※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量不一致がある。

※その他:産業部門(農林水産業,建設鉱業,製造業),運輸部門(鉄道,船舶),エネルギー転換部門(熱供給事業)

1.エネルギー消費量

(2) 家庭部門のエネルギー消費量

◆2019年度の家庭部門エネルギー消費量は、16,178TJで、前年度比2%減、基準年度（2013年度）比20%の減少となった。



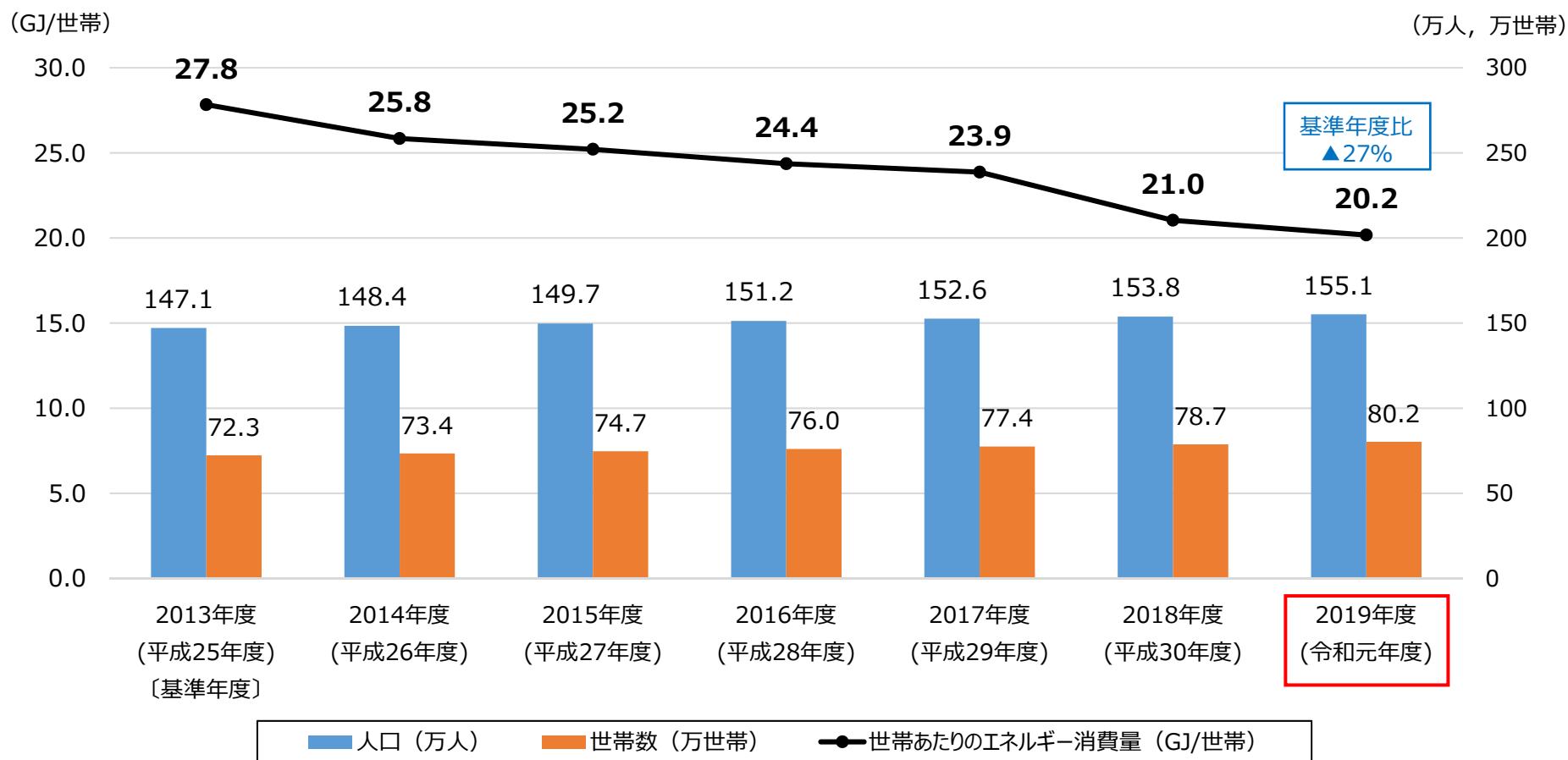
※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

※電気、ガス・LPGは九州電力、西部ガスおよび福岡県L Pガス協会の販売実績、灯油は総務省家計調査年報をもとに推計。

1. エネルギー消費量

(3) 世帯あたりのエネルギー消費量

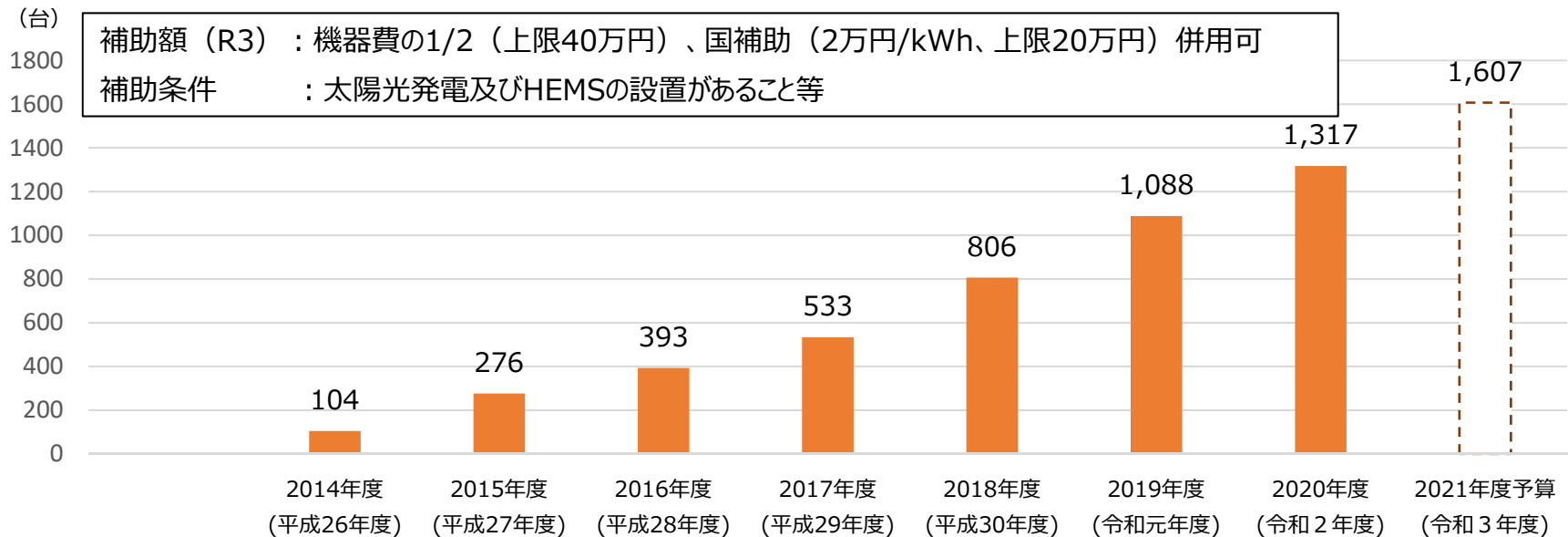
- ◆ 2019年度の世帯あたりのエネルギー消費量は20.2GJ/世帯で、減少傾向が続いている。
- ◆ 減少要因としては、LED照明の普及や家電製品の買替にあわせた省エネ型機器への移行、住宅用エネルギーシステムの導入拡大が考えられる。



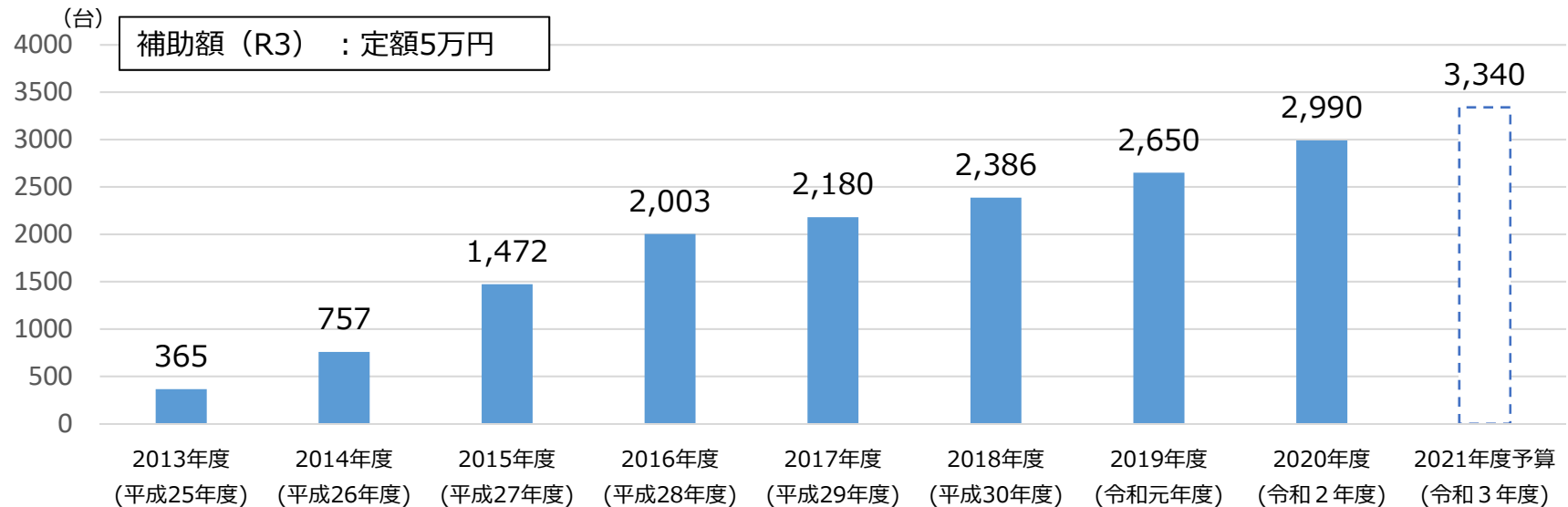
※福岡市の人口、世帯数は福岡市住民基本台帳人口

(参考) 福岡市住宅用エネルギーシステム導入促進事業での補助件数

リチウムイオン蓄電システム (累計)



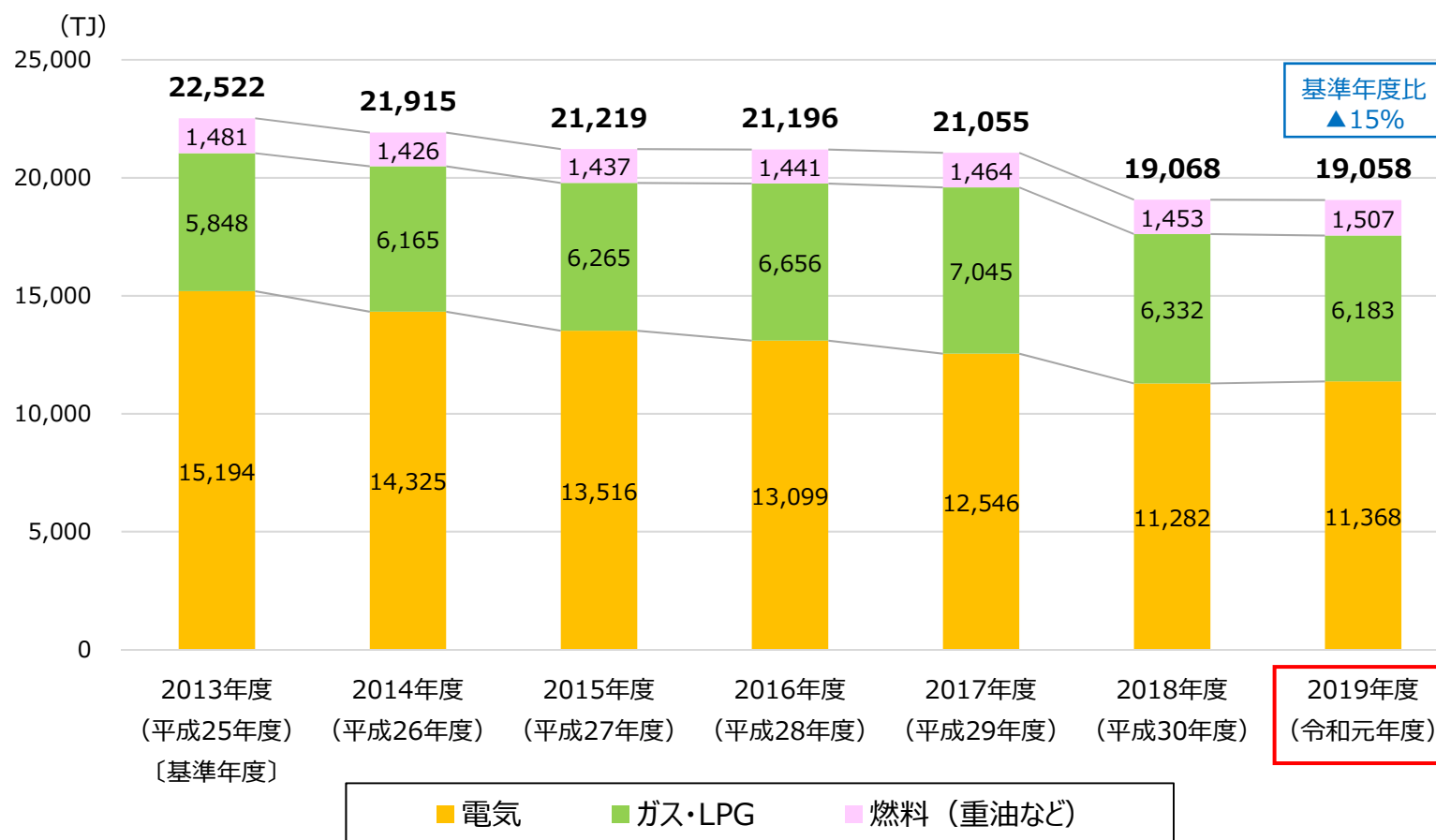
家庭用燃料電池 (累計)



1.エネルギー消費量

(4) 業務部門のエネルギー消費量

◆2019年度の業務部門エネルギー消費量は、19,058TJで、前年度から微減、基準年度（2013年度）比15%の減少となった。



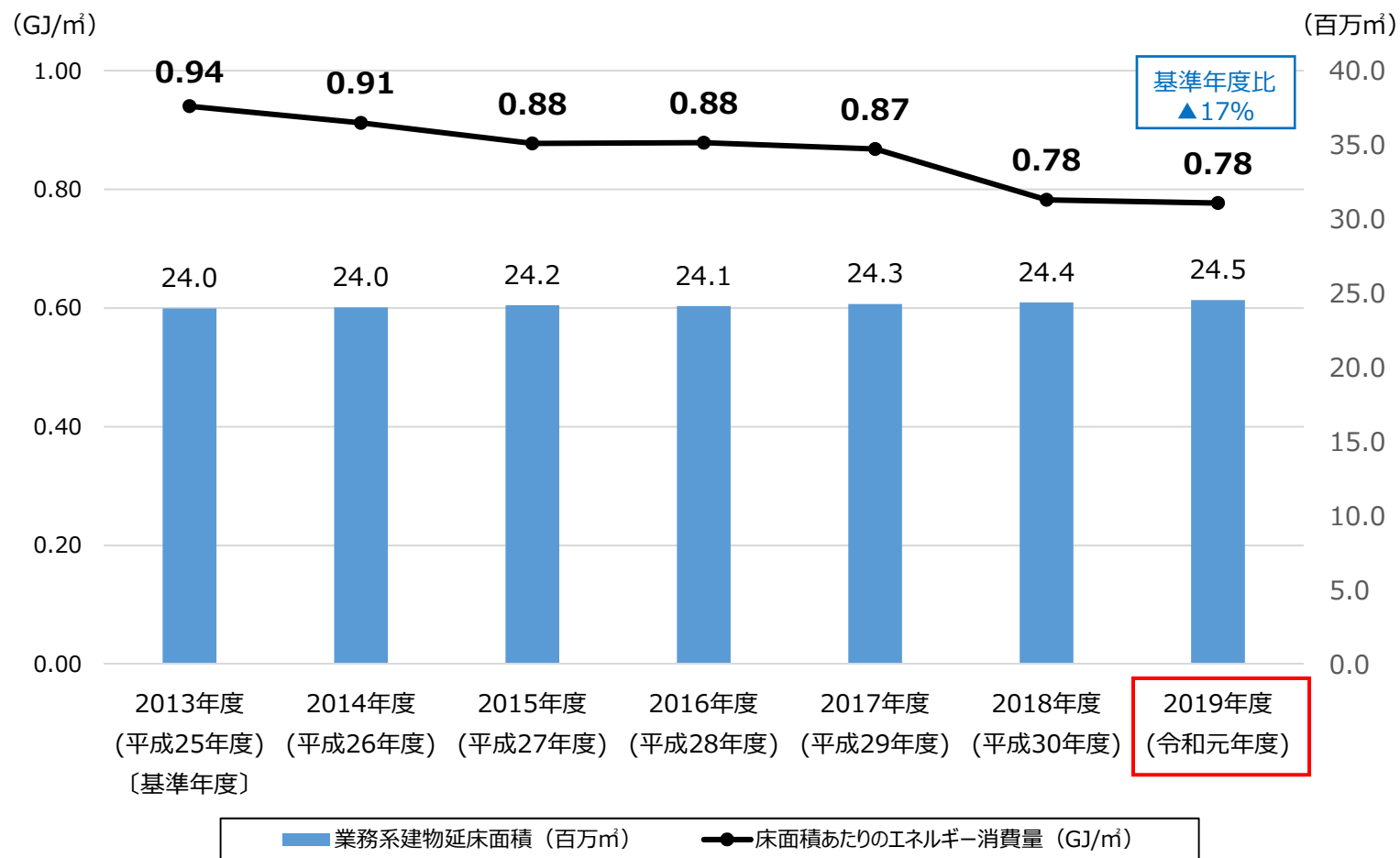
※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

※電気、ガス・LPGは九州電力、西部ガスおよび福岡県LPガス協会の販売実績から推計。燃料は福岡市統計書（建築・住宅）等をもとに業務用延床面積から推計。

1.エネルギー消費量

(5) 業務系建物延床面積あたりのエネルギー消費量

◆ 2019年度の延床面積あたりのエネルギー消費量は0.78GJ/m²で、前年度比で横ばい、基準年度（2013年度）比 17%の減少となった。

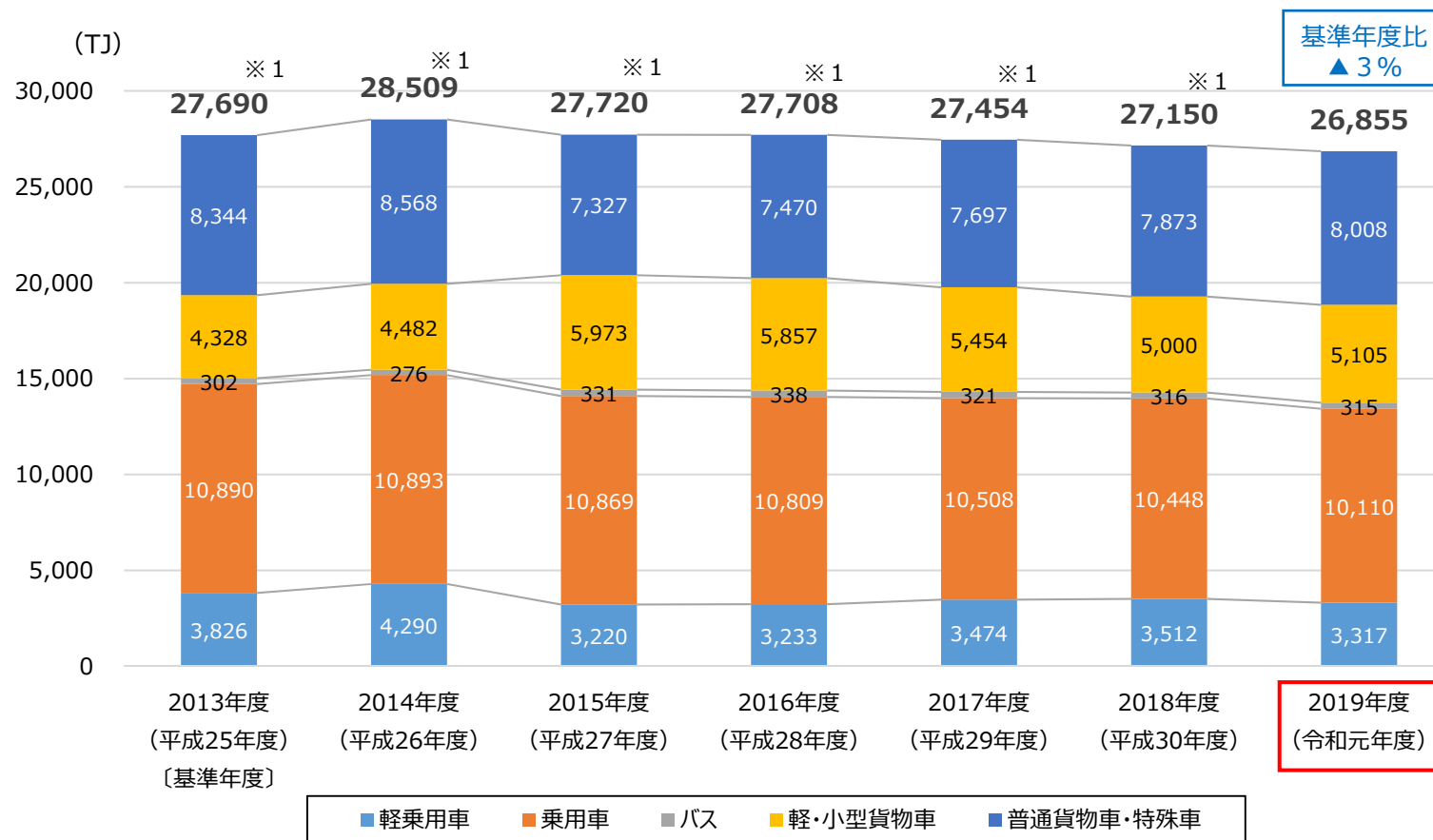


※業務系建物延床面積は、福岡市統計書（建築・住宅 家屋の状況）、公共施設の延床面積等から推計

1.エネルギー消費量

(6) 自動車部門のエネルギー消費量

- ◆ 2019年度の自動車部門エネルギー消費量は、26,855TJで、前年度比1%減、基準年度（2013年度）比3%の減少となった。
- ◆ 軽自動車・乗用車で前年度比微減する一方、貨物車のエネルギー消費量が微増した。

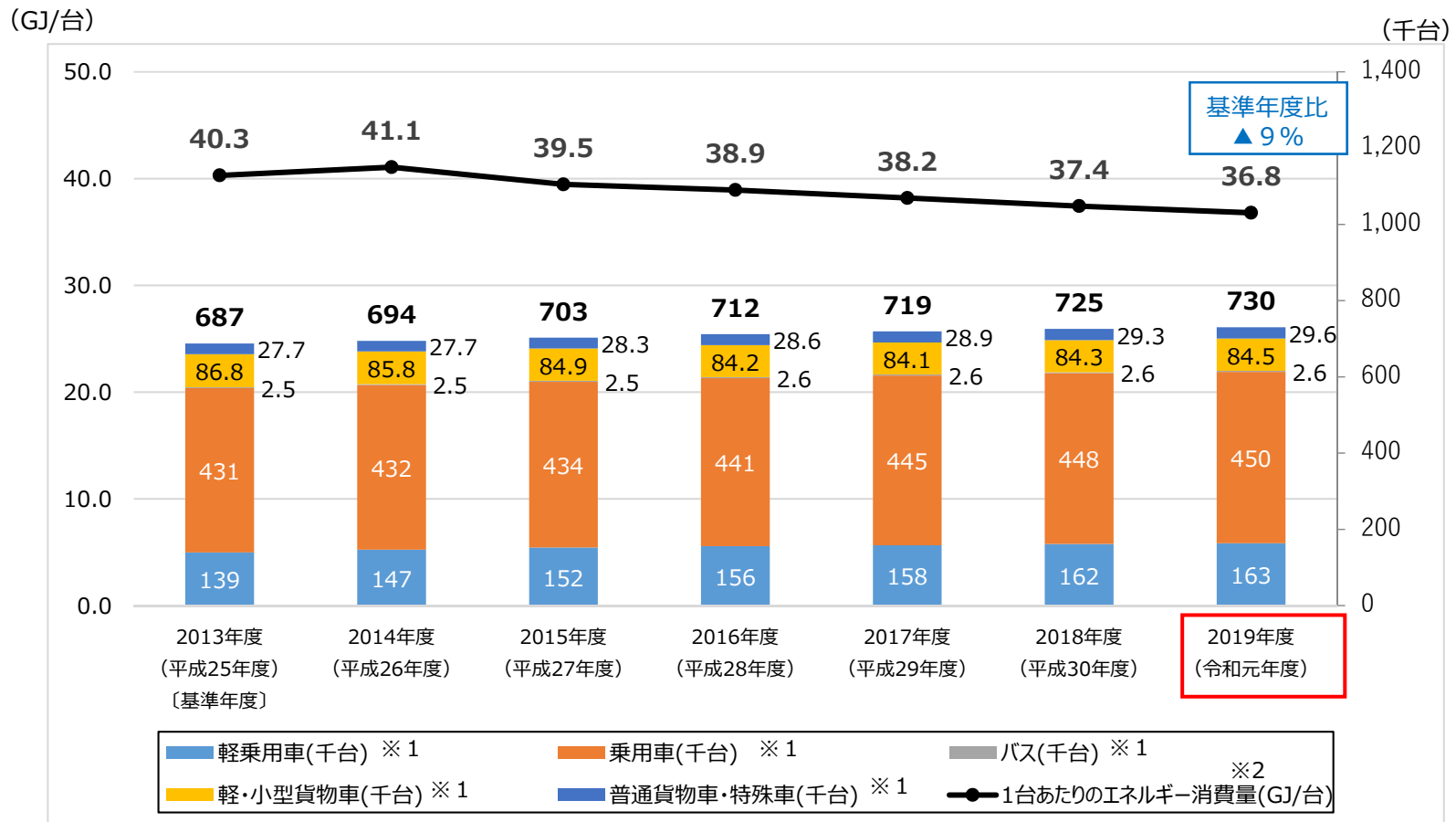


※1 環境省「運輸部門（自動車）CO2排出量推計データ」の修正にあわせ、遡及した値を記載している。
 ※ 四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量不一致の場合がある。
 ※ 福岡市統計書（自動車保有台数）と環境省「運輸部門（自動車）CO2排出量推計データ」から推計

1.エネルギー消費量

(7) 自動車1台あたりのエネルギー消費量

- ◆2019年度の1台あたりのエネルギー消費量は36.8GJ/台で、減少傾向が続いている。
- ◆減少の要因としては、ハイブリッド車の普及等による燃費の改善などがある。



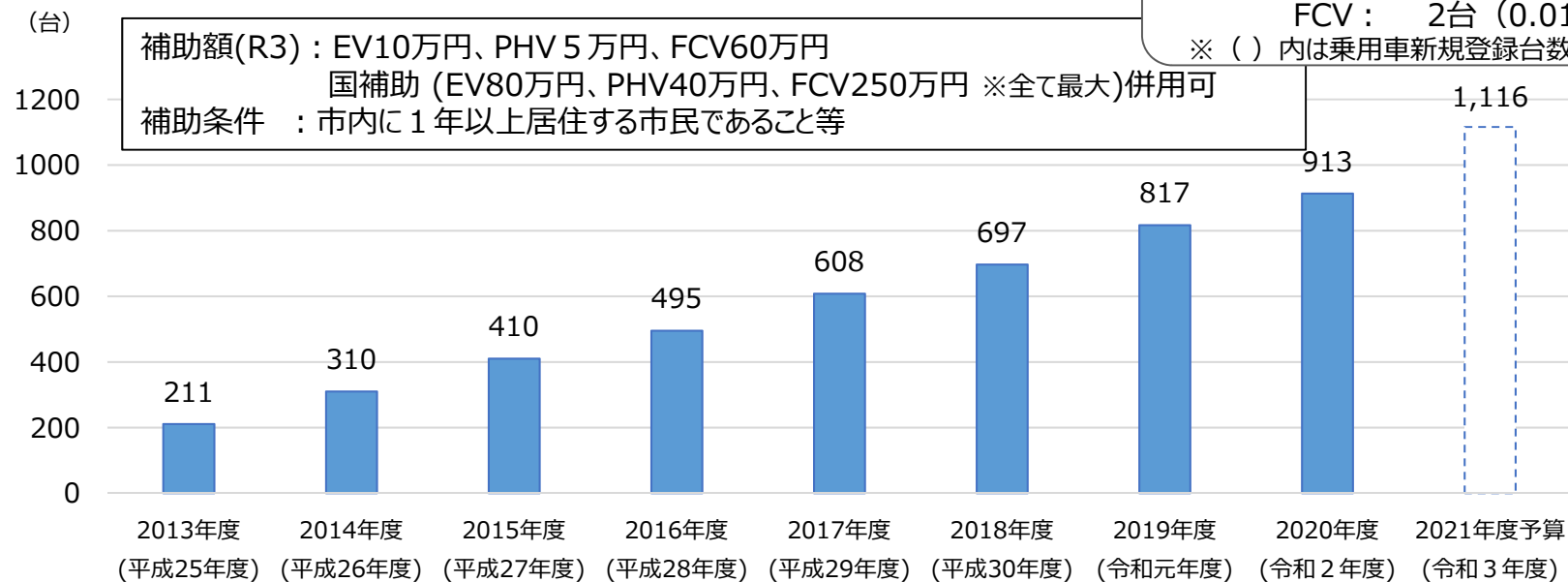
※1 数値は車種別市内の保有自動車台数（出典：福岡市統計書）

※2 環境省「運輸部門（自動車）CO2排出量推計データ」の修正にあわせ、遡及した値を記載している。

※ 四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

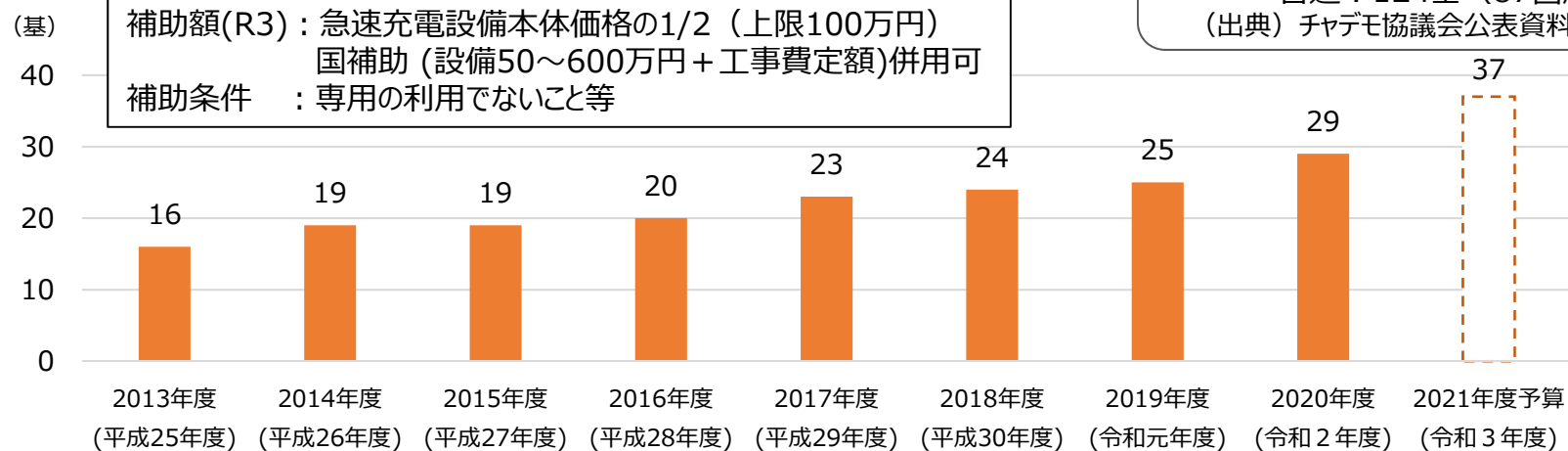
(参考) 福岡市次世代自動車普及促進事業での補助件数

電気自動車・プラグインハイブリッド自動車 (累計)



<参考> 2019年度 市内の新規登録台数
 EV : 229台 (0.60%)
 PHV : 194台 (0.51%)
 FCV : 2台 (0.01%)
 ※ () 内は乗用車新規登録台数に占める割合

充電設備 (累計)

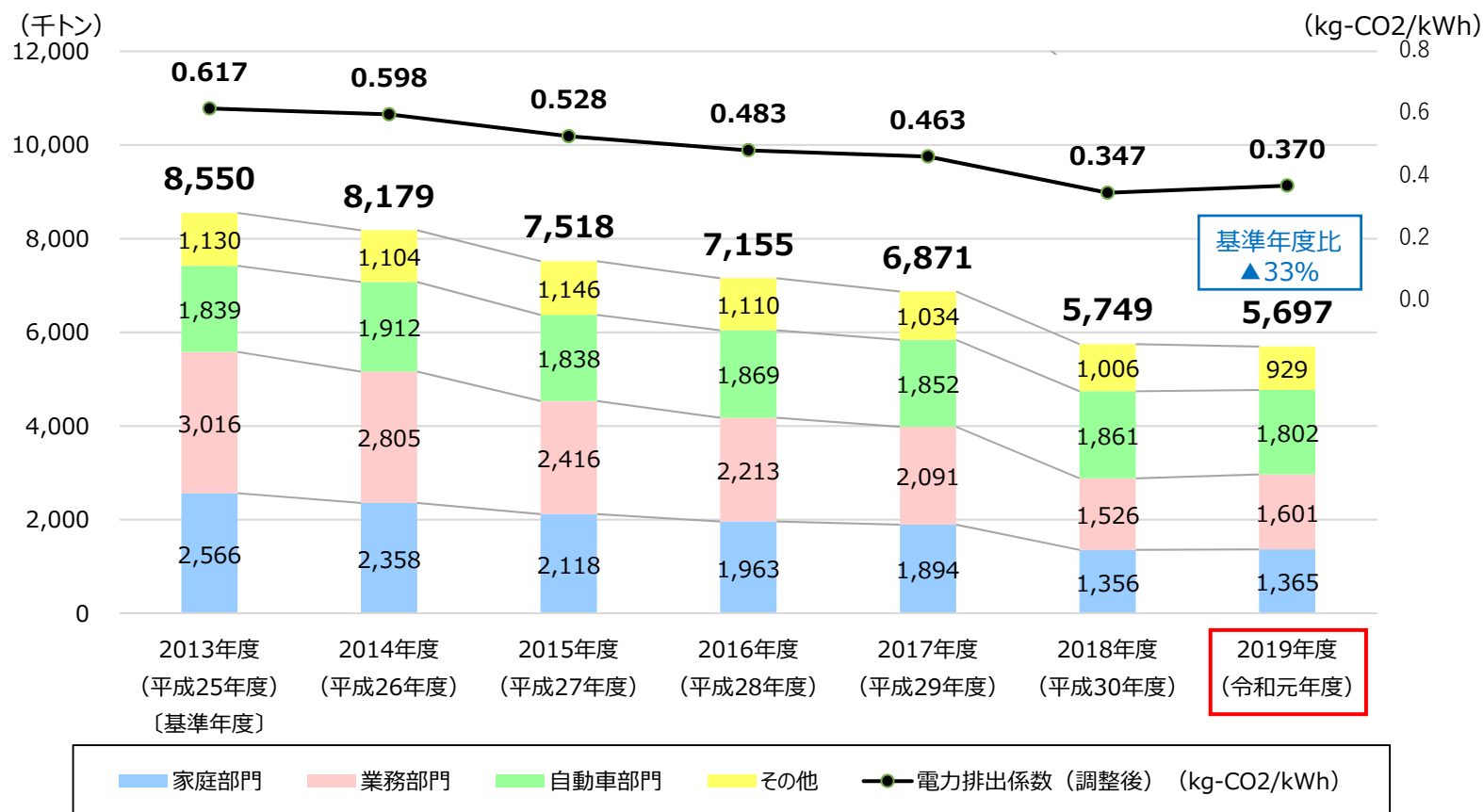


<参考> 市内充電設備設置数 (R3.6月時点)
 急速 : 57基 (55箇所)
 普通 : 124基 (87箇所)
 (出典) チャデモ協議会公表資料

2. 温室効果ガス排出量

(1) 二酸化炭素排出量

- ◆ 以上から、2019年度の二酸化炭素排出量は569万7千トンと推計。6年連続の減となった。
- ◆ エネルギー消費量の減少の一方、2019年度は電力の排出係数が若干上昇したことから、二酸化炭素排出量の減少はゆるやかとなった。
(前年度比0.9%減少、基準年度(2013年度)比33%減少)



※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

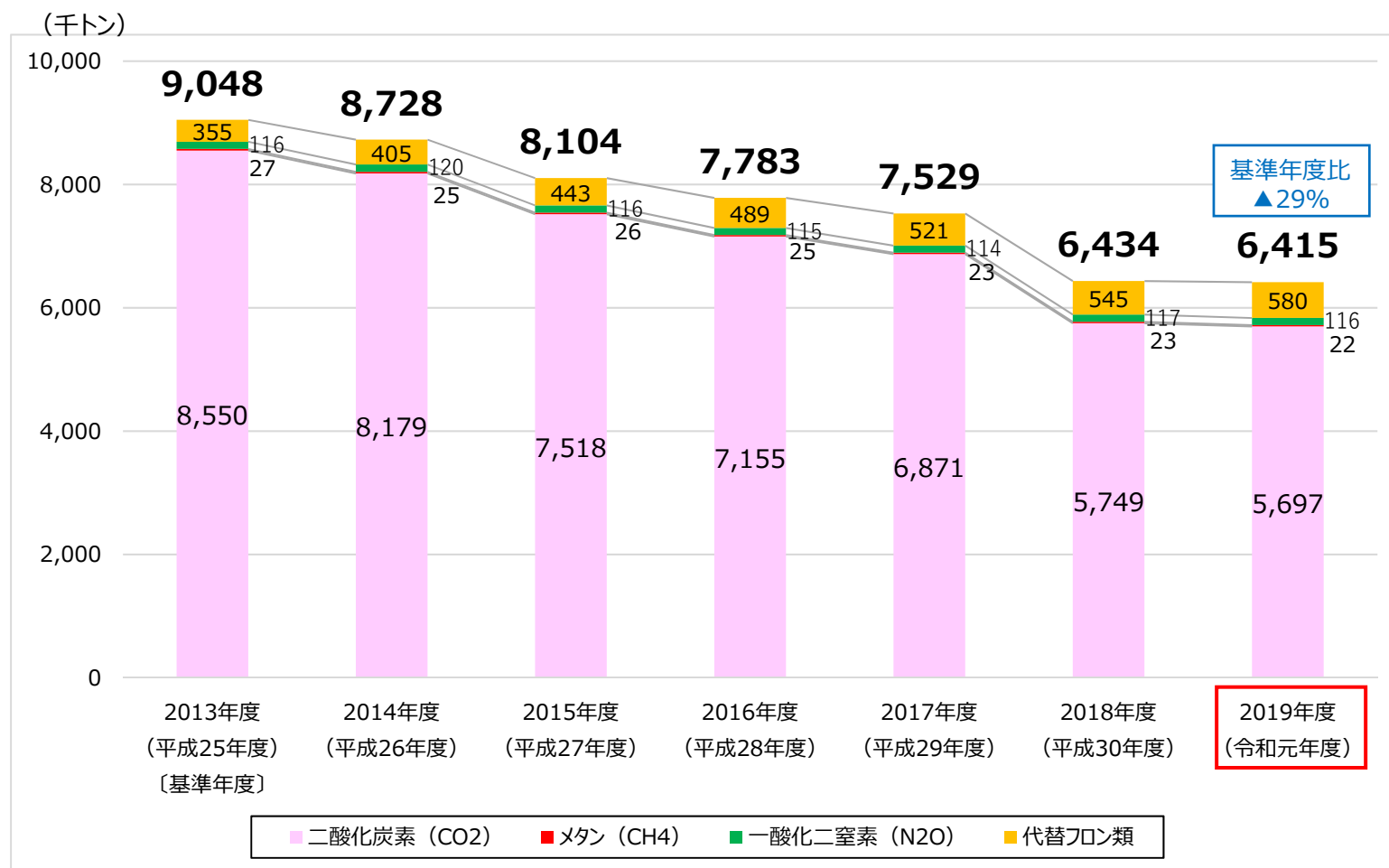
※その他：産業部門（農林水産業，建設鉱業，製造業），運輸部門（鉄道，船舶），エネルギー転換部門（熱供給事業）

※電気の排出係数は、環境省・経済産業省公表「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)」の九州電力(株)の値

2. 温室効果ガス排出量

(2) 温室効果ガス総排出量

- ◆2019年度の温室効果ガス総排出量は641万5千トンと推計。6年連続の減となった。
(前年度比0.3%減少、基準年度(2013年度)比29%減少)



※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

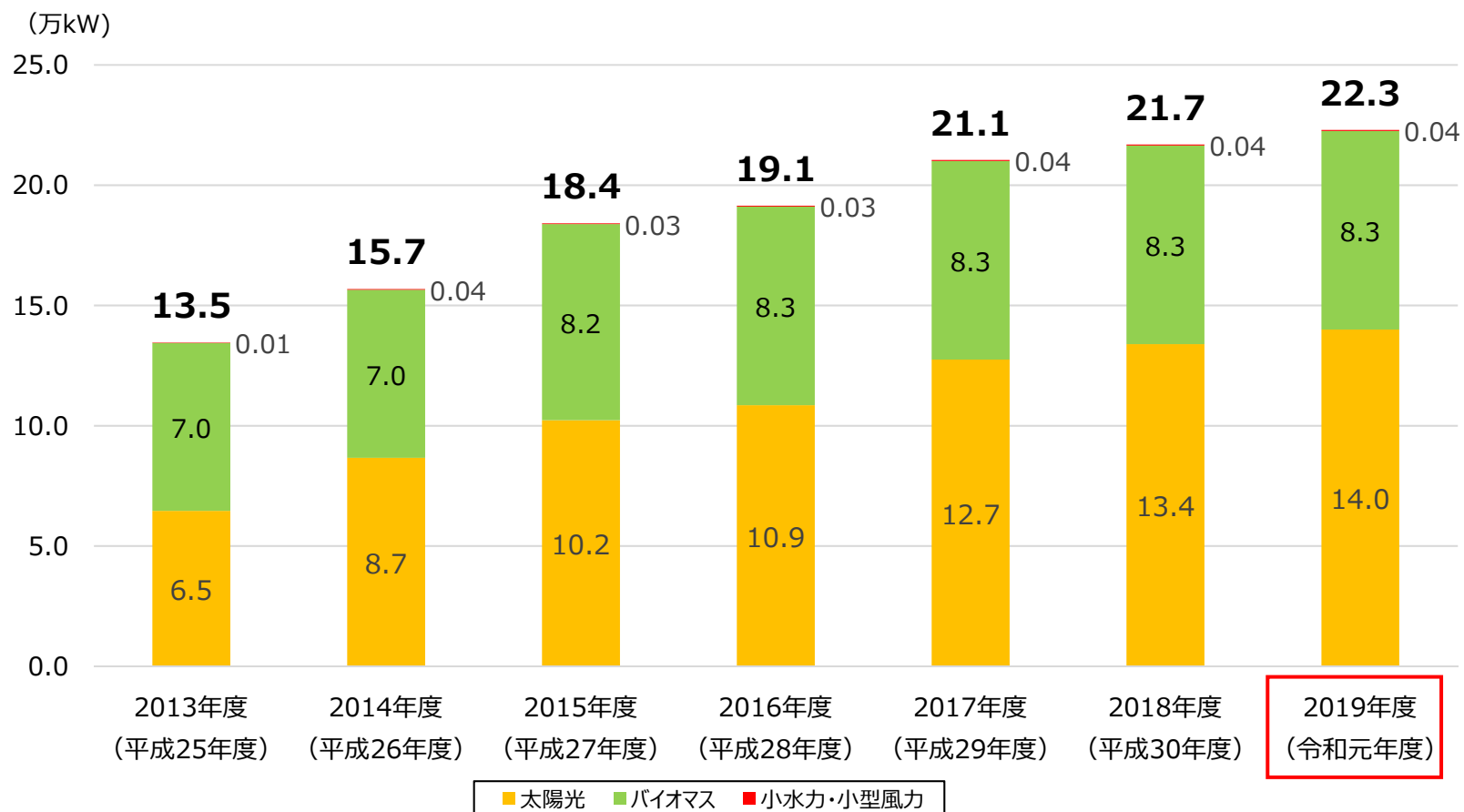
3. 再生可能エネルギー等

(1) 市域の再生可能エネルギー設備容量

◆2019年度の市域の再生可能エネルギー設備容量は、22.3万kWで、前年から約6,000kW増加した。※1

◆FIT制度を活用した民間での太陽光発電設備の導入拡大により、発電規模は年々増加している。

※1 民間施設（系統接続）と市有施設等での設備導入の合計値



※市有施設には、福岡都市圏南部工場、瑞梅寺浄水場、乙金浄水場を含む

※FIT制度：再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度（固定価格買取制度）

(参考) 再生可能エネルギー等に関する広域的な取り組み



※白地図は「CraftMAP」データ

出典) 九電みらいエナジー(株)HP

4. 成果指標等の状況

	初期値	現状値
	2014年度	2019年度
1世帯あたりのエネルギー消費量 (GJ/世帯)	27.8 (2013年度)	20.2
床面積あたりのエネルギー消費量 (GJ/m ²)	0.94 (2013年度)	0.78
再生可能エネルギーによる発電規模 (kW)	15.7万	22.3万
1日あたりの鉄道バス乗車人員 (人)	116万5千	131万
新車販売台数に占めるEV・PHV・FCVの割合 (%)	1	1.1
ごみ処理量 (トン)	57万	56.5万

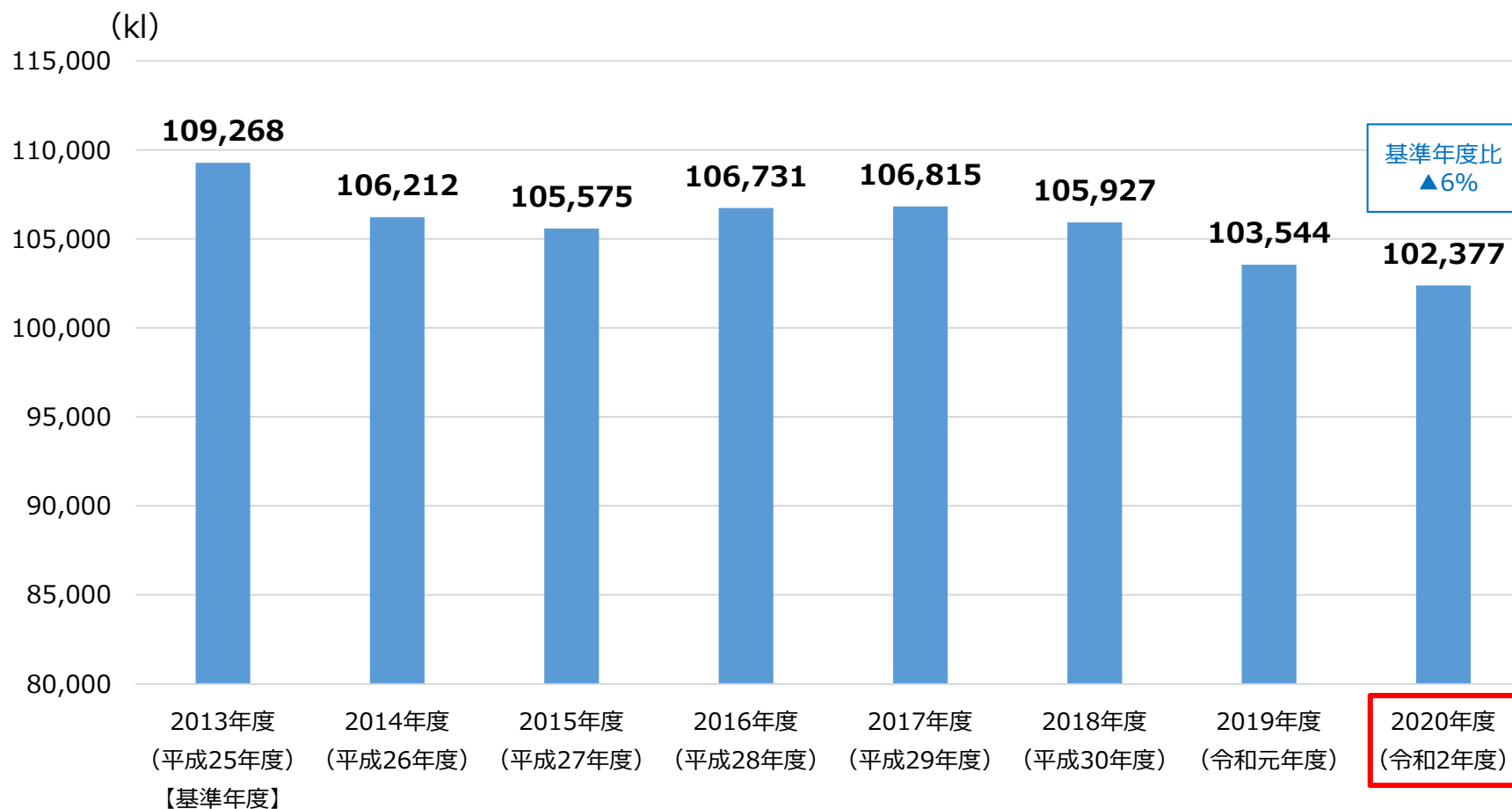
第4次計画 (H28.12策定) の目標値 (改定中)	
2022年度 (進捗確認年度)	2030年度 (目標年度)
23.0	20.9
0.82	0.73
30万 (2024年度)	40万
120万	再設定予定※1
15	20
49万	再設定予定※2
<small>※2 「循環のまち・ふくおか推進プラン -第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画-」(案) の目標値</small>	
54.1万 (2025年度)	53.0万 (2030年度)

※1 福岡市都市交通基本計画に基づき設定。この計画の見直しと合わせて再設定予定。

5. 事務事業（市役所業務）

（1）市役所業務にかかるエネルギー消費量（原油換算値）

- ◆2020年度の市役所業務にかかるエネルギー消費量は102,377klであり、3年連続の減少となった。
（前年度比1%減少、基準年度（2013年度）比6%減少）
- ◆増加要因としては、新型コロナウイルス感染症対策としての換気の強化・分散出勤による空調の負荷・運転時間の増加等があり、減少要因としては、公共施設における催事・利用者数の減少、施設整備の際の設備の省エネ化の実施等があり、市役所業務全体としては減少となった。



(参考) エネルギー消費量の主要事業毎内訳 (原油換算値 : kl)

部門	2013年度 (基準年度)	2019年度	2020年度	前年度比		基準年度比	
					(割合)		(割合)
公共施設, 庁舎等	51,049	47,219	47,534	+315	+0.7%	▲3,515	▲6.9%
地下鉄事業	23,934	22,414	21,944	▲470	▲2.1%	▲1,990	▲8.3%
下水道事業	21,267	20,190	20,219	+29	+0.1%	▲1,048	▲4.9%
一般廃棄物 処理事業	2,022	1,410	1,023	▲387	▲27.4%	▲999 ※	▲49.4%
水道事業	7,908	9,373	8,811	▲562	▲6.0%	+903	+11.4%
小計	106,180	100,606	99,531	▲1,075	▲1.1%	▲6,649	▲6.3%
船舶,庁用車等	3,088	2,938	2,846	▲92	▲3.1%	▲242	▲7.8%
合計	109,268	103,544	102,377	▲1,167	▲1.1%	▲6,891	▲6.3%

※ 水道事業のエネルギー消費量は浄水場へ取水するポンプの使用頻度に大きく左右される。

ダムの貯水量が少なくなるほどポンプの使用頻度が増えるため、雨が少ない年度は消費量が多い傾向がある。

5. 事務事業（市役所業務）

（2）成果指標等の状況

成果指標の状況

成果指標	基準値 (2013年度)	現状値 (2020年度)	第4次計画（H28.12策定） の目標値（改定中） (2022年度)
エネルギー消費量（原油換算）（千kl）	109	102	100 [基準年度比▲8%]

個別取組の状況

個別取組	基準値 (2013年度)	現状値 (2020年度)	第4次計画（H28.12策定） の目標値（改定中） (2022年度)
庁舎等から排出される廃棄物量（t）	4,077	2,120	3,262 [基準年度比▲20%]
庁舎等において使用する 上水の使用量（千m ³ ）	2,314	1,771	2,083 [基準年度比▲10%]
庁舎等で使用する コピー用紙の使用量（t）	1,344	1,485	1,344 [基準年度以下]